

モイレ台団地の皆様へ 大規模盛土造成地耐震化事業についてのご報告

1. 大規模盛土造成地に対する耐震化事業について

大規模に盛土された宅地等において近年、大地震による滑動崩落および液状化による被害が全国的に発生しています。例)平成7年：兵庫県南部地震、平成16年：新潟県中越地震

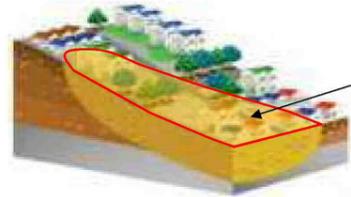
これらの災害発生を受け、平成18年に「宅地造成等規制法」が改正され、国において防災・減災、国土強靱化が積極的に推進されています。

余市町においても、国制定のガイドラインに沿って「モイレ台団地」、「航空専門学校跡地」の2箇所を対象に調査検討を実施しました。

○大規模盛土造成地の要件

① 盛土の面積が**3,000㎡以上**

② 盛土をする前の地盤面の水平面に対する角度が**20度以上**で、かつ、**盛土の高さが5m以上**



盛土3,000㎡以上



②腹付け型大規模盛土造成地 (イメージ)

図-1 大規模盛土造成地の要件

2. 余市町における事業の進捗

町内における耐震化事業の進捗状況は図-2 に示すとおりです。

①第一次スクリーニング：令和元年度

机上で新旧の地形データを比較することにより、「モイレ台団地」と「旧航空専門学校跡地」の2箇所を大規模盛土造成地として抽出しました。

②第二次スクリーニング計画作成：令和2年度

上記2箇所での現地調査(目視点検等)を実施して調査の優先度評価(ランク付け)を行い、**ランクA(優先度：高)**と評価された「モイレ台団地」についての調査計画を策定しました。

③第二次スクリーニング調査：令和3~4年度

モイレ台団地でボーリング調査・室内試験を実施し、盛土の安定度に関する評価を行いました。

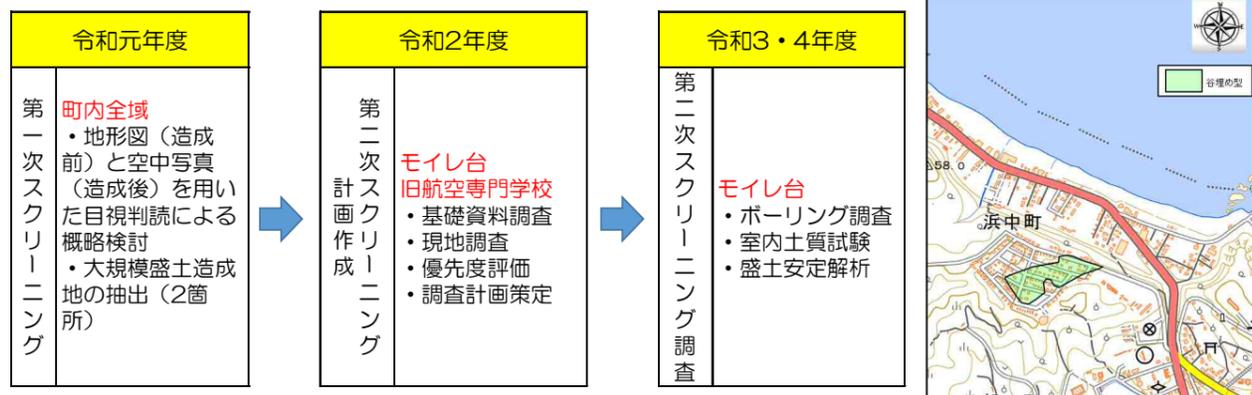


図-2 余市町における事業進捗



図-3 大規模盛土造成地位置図

3. モイレ台団地の調査・検討結果

モイレ台団地で実施した調査結果を以下に示します。ボーリング調査結果より、**盛土の厚さは5m程度**分布することが確認されました。

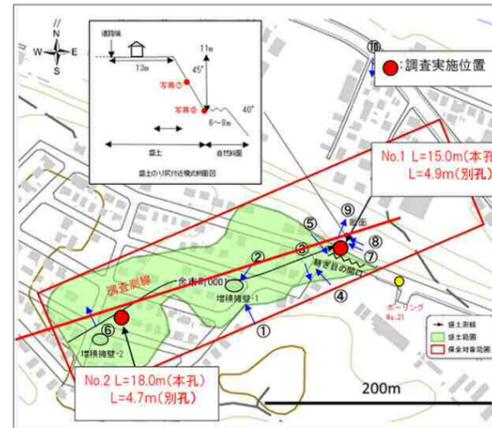


図-4 調査位置平面図

表-1 地質構成表

地質年代	土層・岩相	地質	記号	層厚(m)	N値(回)	記事
第四紀	現世	盛土層	Bk	5.5~6.0	1~5	シルト質細砂状の火山灰を主体とし、径10~50mm程度の角礫及び軽石を混入する。
新第三紀	中新世	強風化凝灰岩	wTf	5.0~6.5	2~12	地下水によって、酸化の程度が低いまま脆弱化した凝灰岩。凝灰質のシルト~細砂の土砂状で採取され、礫及び軽石を混入する。
		凝灰岩	Tf	4.8~4.9	9~63	指圧で容易に砕ける程度まで固結した凝灰岩。一部軽石混じり凝灰質砂の土砂状で採取される。

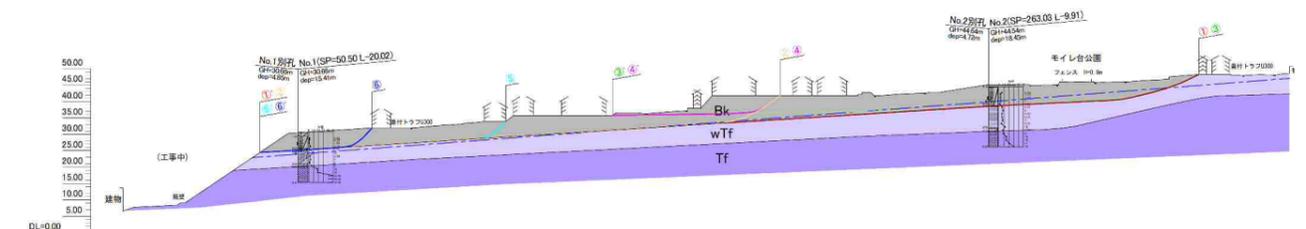


図-5 モイレ台団地 調査結果断面図

地質調査結果に基づき、盛土の安定性についての検討(安定解析)を行いました。**盛土の安定度を示す指標である「安全率(Fs)」は、数値が1以上であれば、地震が起きても盛土が滑り出す懸念はないという判断になります。**また数値が1以下の場合、地震時等に盛土が動き出す可能性が考えられます。

モイレ台団地においては、盛土全体、上部、下部等など、計6パターンでの盛土の滑りを想定して計算を行いました。すべてのパターンで安全率が1以上となりました。その結果、**モイレ台団地では、大地震時に盛土に変位が生じる懸念はないと判断されました。**

安定計算結果一覧

ケース	すべり面長(m)	安全率
すべり面1	289.792	2.237
すべり面2	162.565	2.162
すべり面3	180.06	2.571
すべり面4	52.861	2.134
すべり面5	77.646	2.245
すべり面6	35.654	1.672

4. 今後の対応について(住民の皆様へのお願い)

調査検討では、盛土安定性には問題がない結果となりました。しかし、異常気象時において想定外の災害が発生することも考えられます。そのため、豪雨や大地震等の後、以下のような事象にお気づきの際は、下記連絡先までご連絡・ご相談ください。

擁壁・ブロック塀の割れ目・傾倒 のり面での新たな湧き水の発生
家屋の傾倒、壁のひび割れ 側溝のひび割れ、すれ **その他お気づきの点**

問合せ先：余市町 建設水道部 まちづくり計画課 (TEL 21-2124)